

発見！白井の仕事人25 花と触れ合う暮らしを応援します 有限会社高橋植物園

今回は、木下街道沿いで白井運動公園入り口付近を季節の花で彩る、(有)高橋植物園を紹介いたします。

高橋植物園は、昭和46年に梨農家であった先代の社長が、洋ラン栽培を始めて、以降花卉栽培を専業にしてみました。

平成元年頃には、現在の植物園の形態で開業し、豊富な切り花や、洋ラン類、季節ものの草花などの販売から発送まで行っています。

5年程前からは、鉢やバスケットなどの寄せ植えやフラワーアレンジメント、昨年から新たな寄せ植え手法の「ギャザリング」など、花に関連するさまざまな講習会を園内で行っています。

同園では、土の管理方法から草花の育て方、切り花の魅力などの質問に対して、誠意を持って答えるように心がけています。



ギャザリングで植えた花

新しい取り組みとしては、市内のマンションなどで、管理会社や廃棄物の処理業者と連携して、自宅で咲き終わった花の鉢などの回収をする時に新たな草花などが購入できる、手軽な植物の循環型システムの取り組みを進めています。

そのほか「宿根草」などの新

品種の開発なども手掛けており、数年後にはどの家庭の庭先でも同植物園で開発された新品種を見かけるようになるかもしれません。

千葉大学などの学生のインターシップ(就業体験)や、市内の中学生の職業体験なども受け入れるなど、キャリア教育活動にも協力しています。

昨年、商工会で開始した「暮らしなんでもお助け隊」の会員にも登録し、市内全域へお祝いやお見舞い用のフラワーアレンジメントから、洋ランや寄せ植えなどの鉢物の贈答用の配達も行っています。



季節の花であふれている店内

2代目の高橋社長に今後について話を伺うと「お客様が花に触れやすい環境づくりを応援して行き、皆さんが暮らしの中で草花の持つ魅力や癒やしによって健康や幸福感を味わっていただけるように、花のある暮らしをしていきたい」とのことでした。

皆さんも、土に触れ草花を育てて花に癒やされる暮らしを体験してみませんか。

問 商工振興課商工振興班 内線 3243

発見！白井の仕事人26 白井駅構内の野菜直売所 ほのぼの芦田農園

今回は、白井駅構内で野菜などの直売所を開いている「ほのぼの芦田農園」を紹介します。

芦田農園は夫婦と子どもの家族3人で「土づくり」をモットーに、無農薬・減農薬で野菜の生産を行っています。

芦田農園が白井駅構内で直売所を始めたのは、子どもの就業をきっかけに、新たな直売場所を模索していた中、飛び込みで鉄道会社に交渉を行い、平成18年から駅構内に直売所を開くこととなりました。

直売所では母親の恵子さんが主に接客をしています。駅の乗降客に対し「おかえりなさい」と明るく声を掛け、野菜ソムリエの資格を生かした野菜の食べ方などを丁寧に案内する接客と、駅構内に直売所を設けた発想が評価され、平成21年の「直売所甲子園」では優秀賞の「日本一あたたかい直売所賞」を受賞しています。

年間150種類もの野菜を生産し、月・水・金曜日(祭日は休み)の午後4時から7時頃まで店を開いて販売しています。帰宅途中の人が購入をしていますが、会社帰りの男性客が3から4割を占めています。

直売所の利用者が勤めているレストランに紹介してくれたのをきっかけに、その野菜のおいしさが認められ、平成20年から都内などで数十店舗を営むレストランなどへの野菜の出荷も行っています。今では、レスト

ランスタッフの研修場として月に1回、芦田農園で農作業を行ったり、レストラン側からイベントと呼ばれ、他産地の農家との交流も行っています。

家族で仲良く楽しみながら農業を営んでおり、休みには夫婦で旅行に出かけています。

そんな芦田農園の原点を伺ったところ「一歩を踏み出す大切さ」と話してくれました。鉄道会社に飛び込みで交渉したことをきっかけとして、いろいろな人と出会い、さまざまな仕事が始まりました。農業は命を育むものであり、健康で、おいしく、笑顔になれる野菜を作るため努力していきたいとのこと。

白井駅に降り立った際は「ほのぼの芦田農園」をのぞいてみてください。たくさんのおいしい野菜と、芦田さん家族のやさしい笑顔が迎えてくれます。



笑顔でお迎えます

問 農政課農政班 内線 3252

発見！白井の仕事人27 医療と健康の未来を見据えて75年 フクダ電子株式会社

今回は、白井工業団地にある医療機器専門メーカー「フクダ電子株式会社」を紹介します。

同社は、印西市出身の創業者福田孝さんが、国産初の心電計(心電図を測る電子機器)の開発に携わり、1939(昭和14)年に東京の湯島で創業して以来、心電計のバイオニア企業として現代医療の進化に大きな一歩を記してきました。

1973(昭和48)年には白井工業団地の西側(第一工業団地)に白井事業所を建設しました。

同事業所内では、230人の従業員が、同社の主力製品となる心電計、生体情報モニタ、在宅酸素濃縮装置など年間500機種を製造し、「予防医療から在宅医療」までのワンストップサービスを実現することによりめまぐるしく変化する医療ニーズに対応しているそうです。

なお、敷地内のグラウンドは、ドクターヘリの離着陸場として



フクダ電子(株)の敷地内の風景



工場内での作業の様子

提供も行っていきます。

2009(平成21)年には、NASAの厳格な審査をクリアし、国際宇宙ステーションにおいて24時間心電図を記録できる「防水型ホルタル心電計」を用いた医学実験をし、宇宙飛行士の健康管理技術・知見の獲得に貢献してきました。

また、2004(平成16)年にAED(自動体外式除細動器)の使用が一般市民に認められ、市内の公共施設へ設置してもらい、一人でも多くの命を救いたいという市へ寄附するなど、さらなる普及促進活動を進めたとのことでした。

楽天イーグルスへのスポンサーや千葉市の「フクダ電子アリーナ」などの球技場の命名権を取得するなど、さらに医療施設から家庭まで親しみのある企業となるため、医療の発展に挑戦し続けるフクダ電子株式会社に、今後も注目していきます。

問 商工振興課商工振興班 内線 3243